



普及協会の窓

広島県学校給食研究大会実行委員会主催による「平成二十九年度広島県学校給食研究大会」が開催され、広島県牛乳普及協会（会長 岩竹重城は、学校給食用牛乳を供給する団体として、牛乳・乳製品の機能性と乳和食の普及、酪農業への理解を拡めるため、ひろく女性グループ連絡協議会の松本美喜枝さん（三次市甲奴町）に発表をお願いし、『酪農家の母ちゃん達による



（愛犬カイザーくんと2ショット）

百名を前に松本美喜枝さん発表 乳和食を学校給食へ・食育「何より楽しく食べるんだよ」



（発表される松本さんと、サポートにあたる藤川職員（右端）

牛乳普及活動への取り組み、語り部「私たち酪農家の願い『乳和食等の普及活動』と題して発表頂いた。

この大会には、小・中・高等学校等の学校給食共同調理場や市町教育委員会等の学校給食関係者約百名の参加があった。

松本さんは、自らの牧場紹介と酪農

家の一日、そして、広島県における健康寿命を例に挙げて、『だしは牛乳

美味しく減塩 乳和食』のキャッチコピーで、減塩効果のある乳和食料理の

学校給食への導入を呼びかけるにあたって大量調理レシピを紹介された。

このほか松本さんが特に気に入っているという「牛乳一リットルパックからできる、ホエーとカッテージチーズ」を持参され披露された。

松本さんは、発表の最後に『お願い』として、「食育は頭で考えて食べることで、食育は頭で考えて食育すること。それが『生きる力を育てること』で、家庭だけでなく学校給食を通して、これら子供達に伝えてほしい。そのためには、まず何よりも『楽しく食べる』ことで子供達が食に対して興味を持って食育を意識するようになってほしい』と参加者に呼びかけられた。

参加者の多くは、牛乳が牧場から学

校給食として届くまでの話や、乳和食の調理法の話をもっと聞かされていた。



（閉会挨拶に立つ岩竹会長）

閉会では、岩竹重城会長が挨拶し、学校給食に係る取り組みとして、牛乳・乳製品利用料理コンクールや児童牛乳ポスターコンクール、そして出前講座を紹介し、「乳和食を学校給食の場でしっかりと活用頂き、子供達の健康に牛乳が貢献できるように今後も取り組んでいきたい」と、牛乳・乳製品の学校給食への活用を求めた。